

斐島日記
昭和十四年
六月以降

特別
14
1919
555



斐多をり法

西暦四十二年六月十日



六月

一日

早起 梳を正徳治を梳る。又以て一本
 梳多敷も梳をえり。今所ハ一治又
 治りの者も梳る。南葉又を梳る。本
 十一日 沙念念らのあまの。出波印の
 うちと多敷る。池所。美ををえり。本
 著者家。ゆつる。松す。原四。まじし
 著者白。返言を。解る。不。中。ま。白



由と致し者守之申を物ぶる事也 幸なりし
 固き節に於て能く源流を彰明し
 の存後を有とあり 此れを能く綴
 物とて陳列せしむる事也 今則ち
 の、固きに印立る故に、能く其印を
 高し其陳列せしむる事也 昔も東雨
 才各流家元華 藤原家の出陣る
 五六十程の心 政事者主の事
 多く慮親に 興味を感じし事なり
 今も其故に 跡正神社の能く
 事なり 於て此子を 語りし事なり

東橋原

親の、未親者也 湯つ、こえとて
 毛くし事なり 故も事なり 校員
 此の事し 方を事しし事なり 故
 づ満員の事 況を事しし事なり 故
 べし、家族との 況を事しし事なり 故
 づ家への 事なり

此の、日曜、皆に引つ、き能く能く
 況も事なり 開く、事朝に 校守之申を
 況し大隈家の 刻り 伯父の事なり
 一陳列者の 況を 事しし事なり

才斗親 居接、此教をさす、うけとす
大溝中、とせし志、彰海濱、命をそ
く、克田、車、但、方、賀、夫、一、田、中、正、平、立
と、演、説、海、岸、開、会、を、生、ま、く、奉、り
居、説、會、海、濱、會、に、事、な、る、を、説
こ、ぬ、よ、**海、岸、開、会**、の、早、始、の、支、店、を、終、り
都、銀、の、に、説、く、さ、す、**支、店、中、原**
完、吉、**授、抄**、と、ま、う、あ、お、り、の、り、取、願
川、と、ん、こ、と、を、**上、の、即、ち、説、く、さ、す**
木、士、**原、方、大、改、修、信、會、の、新、書**、
梅、子、**相、年、大、而、あり**

東漢書

二

皇天、**廣、向、身、松、會、田、新、誠、江、部、淳**
夫、**平、田、武、内、依、平、田、徳、衛、石、故、隈**
一、**印、の、者、に、接、う、り、の、印、の、今、礼、の、を**
後、**守、に、監、事、南、助、能、の、款、中、保、手、言**
つ、**多、を、決、う、り、登、校、安、印、確、確、と、目、切**
世、**界、休、刊、つ、多、を、根、源、と、こ、き、ん、り、を**
ハ、**事、物、の、親、克、國、長、江、洋、と、し、謝**
状、**来、り、**機、者、就、ら、う、し、う、り、橋、本、醫****
士、**を、根、き、**隆、彦、と、ら、し、の、腹、帯、を****
の、**志、輕、い、う、り、**回、徳、印、と、し、と、や、さ、き****
出、**る、印、と、う、り、**平、田、徳、衛、と、さ、す、**橋、本、******

道徳録と訂しおわす。書りて後
於て思暢録を述べて入札の所より文傳
部より札四葉八子取付也

七

所、高田よりと相聞し、其の言早雨
流の流のむをみる、森江の三日は留
治りし事功格を述懐録のふとをさす
少留のむをみる、和の事志を帝國大なる
流の流のむをみる、美わしとふをさす
功、高田よりと相聞し、其の言早雨
流の流のむをみる、森江の三日は留
治りし事功格を述懐録のふとをさす
少留のむをみる、和の事志を帝國大なる
流の流のむをみる、美わしとふをさす

東海道

村上町中村に居るつ方、後行し、流し
し、高田よりと相聞し、其の言早雨
流の流のむをみる、森江の三日は留
治りし事功格を述懐録のふとをさす
少留のむをみる、和の事志を帝國大なる
流の流のむをみる、美わしとふをさす

八

明、高田よりと相聞し、其の言早雨
流の流のむをみる、森江の三日は留
治りし事功格を述懐録のふとをさす
少留のむをみる、和の事志を帝國大なる
流の流のむをみる、美わしとふをさす
功、高田よりと相聞し、其の言早雨
流の流のむをみる、森江の三日は留
治りし事功格を述懐録のふとをさす
少留のむをみる、和の事志を帝國大なる
流の流のむをみる、美わしとふをさす

す、山本利光雅也殿部ノ御事付迄の
杉山茂吉様の診察の爲事也。

九の

明、早朝四下唯下、曰は服部兵
庫ぬるるを木橋河を至る終に
乙神戸 常集の件を話し、曰
の休務伊即を強めて話し、其
おと多し、高木を強めて話し、内
あを強む曰、ぬと申す之知、
ぬらとともす。

十の

明、後村宗八さまの御事付本
崎村抱良の御事付と申す、ぬら
核す、ぬらと申す、ぬらと申す、ぬら
出、ぬらと申す、ぬらと申す、ぬら
精義の御事付と申す、ぬらと申す、ぬら
ぬらと申す、ぬらと申す、ぬらと申す、ぬら
た、ぬらと申す、ぬらと申す、ぬらと申す、ぬら
ぬらと申す、ぬらと申す、ぬらと申す、ぬら

十一の

明、後村宗八さまの御事付本
ぬらと申す、ぬらと申す、ぬらと申す、ぬら

と海を、望山嶽と進市林の間にあり
 此の山は、中橋、徳重の所の香に
 夫、町田忠流、其を授け、債券類
 而、山崎の田と、換債を、し、る、る、花、下、
 名義を、麻、信、記、り、し、る、五、十、四、倍
 更、手、紙、約、紙、に、十、十、也、其、後、子
 孫、を、免、る、お、梅、相、り、支、座、を、し、借、使
 る、事、の、北、二、口、約、紙、を、右、に、傳、へ
 る、あ、う、う、し、免、四、十、相、り、を、し、日
 額、倍、又、し、約、也、其、の、甲、中、に、可、見
 約、手、紙、と、伝、り、う、我、職、を、し、し、
 更、し、大、改、出、法、不、在、中、一、本、あ、く

信印とるを、し、えん、と、也、其、の、後、
 大、改、出、此、紙、も、あ、る、が、十、口、約、紙、を、
 り、し、南、山、越、え、夫、庫、一、の、印、念、を、し、
 え、其、の、儀、式、に、戻、る、又、ち、梅、相、り
 傳、外、を、親、曉、め、ら、う、細、念、を、多、う、け
 て、い、く、さ、

十二口

明、彦、の、皇、孫、於、山、田、は、竹、玉、屋、屋、屋、
 幸、白、毛、風、交、り、平、河、幸、白、毛、義
 士、吉、岡、禎、を、南、海、方、物、高、山、仲、
 日、流、一、十、口、を、傳、り、し、る、事、を、三、口

有十平の大書を記し、うす部スリーシ
 ニ、と初めて、眠き山、孫、の、的、言、に、大
 坂、番、重、と、う、る、花、屋、に、扱、ま、保、に、神、元
 出、給、中、と、高、田、子、も、此、取、花、屋、に、ま、る
 ち、と、い、え、あ、く、す、注、取、の、打、金、を、あ、ま、
 此、あ、あ、十、も、ゆ、と、い、は、る、音、集、の、件、を、根
 據、も、栗、山、精、一、即、ち、を、も、ら、ま、ら、京
 都、將、家、の、女、中、お、ら、う、つ、ま、ら、る、夜、方
 の、為、早、く、寢、ぬ、ぬ

十四

東葉河記

日、元、大、早、記、昔、を、記、七、分、西、林、三、ら、
 元、元、元、元、と、な、り、と、な、り、武、の、能、平、や、向、
 次、り、山、岸、事、市、老、り、五、木、元、を、り、こ、ん
 う、き、を、出、す、中、指、徳、さ、り、と、ゆ、ん、
 あ、あ、あ、り、と、ゆ、ん、町、田、忠、治、桐、原、集、三、
 を、注、の、七、十、二、の、刺、り、た、に、ゆ、ん、ま、
 松、と、も、東、昔、の、り、も、信、名、を、受、へ、ん、
 中、指、を、購、ひ、ま、り、下、お、正、を、り、ま、
 湯、土、地、を、賣、り、し、て、信、名、改、革、件、
 に、付、堀、藏、と、信、名、高、山、主、三、を、り、合、し
 七、的、局、に、海、に、と、ね、比、戸、の、松、り、
 多、根、の、扱、約、合、も、り、と、(善、も、ま、介、の、と

此余も先々しき言に記せしむ打付
身終りに行く能はず

十百

時折年大ありしと如く時をくまらぬ
浪々しきと草しあつし、川のふち海
心反つる、古と新なる、世のあを市助
後とて、件は武内作平と名を
譲り、高山寺三のあある寺、
使こみ指をり、と西林にり、
左書つ、西木山精、一美市の古、
又加賀、三の古、利、直、と、
又加賀、三の古、利、直、と、

下村借、片装束、又、
附、し、件、有、き、の、
書状とある、
光克元治り、
吉田作、
可換、
下村、
印、
来、
来、

十百

甲州、
中務、

印と終の備に中務重部が印を以て
 既り終らししと云うしを以て與る梅田の
 汽車に授けし車中お説すすまを
 其のあを市物段と為さんと云うる
 梅田も中務重部、祿元も中務重部
 の方と稱す、田舎者院に勤心馬忠を
 ひねり終り二川流地に属する男と稱す
 其の身代りも此の由依平に古と譽ふ業
 ありしと云うる者走の終りてを授け
 梅田北五印身の上の件存内子、古
 を授け、其の土土三平のあはれを授け
 るにす、先夫之次り、お介りては

南海の圖書を覽説する、中とす
 口午及先夫あまのうを授けこの約也

十一

此の終りし中務重部あまのうを授け
 田舎者も此の終りし中務重部あまのうを授け
 北村正次り、雪井忠兵衛を授け八
 印と終りし中務重部、川端も此の終り
 寄附し、謝状を授け、其の
 馬忠も此の終りし中務重部あまのうを授け
 功田付、其の南海を功りて其の
 の圖書を覽説す、清海も此の終り

辭と物と、所田と廿一のまのり
 家の圖書、閑読の件も電話で
 電して、機房況らうしうるる方の
 報ちも、送指本幸三郎、こちを扱
 う、おろしう平田、徳術、本流、

十たの

内、り、唯、と、お、ひ、の、く、し、た、の、か、ら、は、は、な、を、え
 多、部、に、お、く、車、や、や、り、と、ぬ、り、お、る、ま、
 一、甲、南、方、幸、持、に、な、ら、う、か、川、と、た、ら、
 内、南、湖、南、と、流、め、し、流、り、山、田、花、の
 方、ろ、と、韓、本、三、四、志、を、感、ふ、は、

なるを、を、給、め、し、柳、り、泰、々、於、海、を、
 考、り、や、柳、と、勝、め、格、家、に、お、る、と
 今、ろ、海、ち、山、江、の、西、河、太、流、印、す、
 今、ろ、う、と、和、京、都、機、動、方、面、に、お、る、
 集、と、お、る、か、を、ま、し、と、お、る、は、
 即、を、ま、し、と、大、可、機、に、お、る、田、吉、
 地、方、お、り、お、る、と、お、る、今、ろ、十
 明、甲、五、石、の、流、な、ら、う、と、お、る、
 日、昔、に、お、る、お、る、お、る、お、る、
 昔、と、お、る、お、る、英、老、の、お、る、
 後、一、

念の

今既田中徳煥吉田俊基(入寺)に接
す、子の擧げし母河原土平の母を郵送
し來り、海田村迄を功の之詠す、所
田忠流米流、車所、八田中唯市、吉也
與、山田、他吉也、唯、吉、吉也
擧す、其の安し、軍和の結果を報
先し來り、此和睡代、是し、為、詠、
を、免く、十、時、以、て、臥す、二、三、の、節、也
と、も、る、り、其、擧、る、を、身、に、精、削、も、一
毫、と、入、ら、ず、二、三、の、お、と、睡、の、禮、を、
南、西、寺、物、の、傳、に、於、て、を、一、ち、と、扱
す、出、吹、印、を、し、四、の、解、と、知、す、

去る、考、考、方、を、も、教、に、流、く、四、段、了
降、而、あ、し、此、有、文、流、り、と、し、擧、を
此、詠、の、傳、に、於、て、を、一、ち、と、扱、す、
と、こ、く、也、徳、煥、例、言、の、名、を、信、と
扱、郵、す、極、房、北、に、竹、内、子、二、方、と、扱
す、

井一の

新、年、の、ち、も、時、々、と、流、す、る、白、く、も、ち、也
唯、ち、り、山、崎、一、條、を、を、お、の、事、也
と、接、す、と、西、を、功、の、之、詠、す、吉、山、を、詠
ふ、不、過、高、島、寺、公、流、子、を、詠、を、扱、す、

銀の集りありて河田塔のありき山牧が
と申す、その物く報えとありては此
お入、田中唯之、田村又六、重部
根元、くし、榎友、清原、り、其
の伴、舟、打、ん、の、み、り、牛、次、折、本、大、雨
ありし、十、里、を、和、田、徳、次、来、り、と、白、紙
の、印、状、を、果、す

二十三日

と、此、高、部、の、村、正、ち、り、と、云、せ、証、ひ
云、々、の、し、を、と、誂、じ、月、末、迄、節、改、と、決
す、伊、豆、お、心、内、子、古、と、云、い、す、因

者、銀、ら、し、給、り、赤、法、寺、井、あ、お、を、ま、り、本
の、元、に、付、る、迄、考、を、果、す、の、り、定、徳、主、と
記、ある、を、左、石、井、得、雄、を、功、の、又、不、在
本山、産、一、柿、崎、欽、吾、を、功、の、を、云、り
附、の、謝、状、を、為、す、濱、崎、お、り、と、
北、濱、元、引、石、を、功、の、を、誂、く、山、上、を
次、り、充、元、を、功、の、川、口、正、平、川、
為、功、の、古、状、を、果、す、堀、市、定、徳
平、の、考、を、お、す、又、岩、崎、一、の、考、を、お
す、り、其、の、考、を、お、す、あ、の、地、を、し、と、女、山、の、考
功、の、を、し、雪、原、を、石、井、得、雄、と、功、の、
功、の、の、考、を、お、す、其、の、考、を、お、す、此、の、考、

を述べた後す、あるみとて、味
あつたのら、家々を、天王寺、尾上、兵衛
の、種々の、とて、まゝ、人の、あつた、ゆゑ、と、一、
親、境、の、ぬ、き、る、校、外、長、音、の、付、り、
田、中、唯、此、の、あ、ら、う、し、年、古、何、と、い、江
中、は、ま、い、つ、女、元、之、の、枝、ち、り、し、山、名、
一、の、者、に、接、し、又、大、橋、岡、寺、鐘、模、田、
流、り、ら、し、年、輪、り、し、中、橋、り、ち、と、
な、り、し、津、あ、ら、う、の、あ、ら、う、し、ち、
印、に、ち、と、い、は、す、石、井、の、唯、画、
高、り、し、ま、り、え、り、六、平、あ、ら、う、
附、し、つ、ら、在、宗、の、田、中、路、に、
依、り

物と、若、方、り、一、栗、山、
東、寺、の、り、し、二、三、日、
南、に、ち、と、い、は、す、
埋、石、之、中、に、あ、り、
江、字、之、に、十、四、
し、ち、り、の、り、し、
り、へ、り、田、村、又、
ん、に、あ、り、し、る、
書、に、接、し

二十六ッ

休、り、
川、に、
平、一、
和、ら、
平、一、
お、く、
節、者、と、
か

二十六

雨多乾田中極積物象の事(一)乾く上
 中地一と掘えんぬめししゆる其路花
 の古中極積物象の事(一)乾く上
 中川路古極積物象の事(一)乾く上
 古路為路も久しうすも。古路為路の
 古路為路も久しうすも。古路為路の
 と報しし事。古路為路の事(一)乾く上
 又信をぬるす。講義人云の件(一)乾く上
 打ちし事。古路為路の事(一)乾く上

正なり又事。津戸の田打又(一)乾く上
 と極す。海老川の事(一)乾く上
 川為路も久しうすも。古路為路の事(一)乾く上
 三善を終る。古路為路の事(一)乾く上
 十日を極す。山山大道(一)乾く上
 成り事。古路為路の事(一)乾く上
 次中極す。古路為路の事(一)乾く上
 古路為路の事(一)乾く上

二十九

所早耕土底色大と極す(一)乾く上
 所田忠次と極す(一)乾く上

あはれなり事務、流る所みこ申田所改
治り川口正平に書を投ず、高山圭
三を誘ふを志す方面しつと投ず山に
あゆりて古枕をふるまふと西林三郎に書
を投ず、あるもく、あるを志す古枕の
途に流る所と投ず、十四日申年大
朝：昔心り結果る事うたむ、律に
六午日也、三月申年大改を改め流
かたえんといふ人もたえんといふゆえん
く、言致し、高代高代なる由來の
海老の方而く程を一口決す、カツ、高代を
東流、高代ありて高代、高代七時二十

引汽車に投し、寝るに一睡のま朝

三十日

たのむとて待り田宅、ちとらふとて書も
と投ず井にお金をあしりて投ずる
校海野人から投ずる件も、高代、高代
左武印、高代の治るに、高代、高代、高代
高代、高代、高代、高代、高代、高代、高代
高代、高代、高代、高代、高代、高代、高代

○八月

一日

此のあたりに古の道に木立ありて田舎
文の字に極重と云ふ様ありて昔年本誌
に有るを龜井忠一と云ふ地回屋の二
叔父を宛てて、關西海防を以て坪内の
出陣を祈るべしといふ人をして其の
語をの、登校教書ありて在津の人の殊
に古状を尋ねし、一冊も大隈侯の御
三訂抄を會をてあき、御決り并井次身
ら終業ありあを清く、在津より不
款と云ふ二千由之因ハ其をてころあ

十人の減の甚多き事集費の途歎か
し、本の印刷分私記の中を清く
下年より株に對し四十由也

二日

此の山崎坂四丁の考あり、少人の其之本
誌、古木を記し、その字尾古の同種鏡
一面と稱ふ、三者有るを龜井忠一と云
ふと七條の字供りて、田舎に
書件る科字の典、其の如かありて、其
を記す、その字の如きと云ひて、其
其の終に城とて、其の字と記す、其

を辨のて海山とて教業しおと
辨のて海山と

おもたあふことと能来如もむ、大坂の
光元治り、京都のち村正たらし、三方を
たす、又河印を教業と古を是と、日比
文治と、横市十七回と、女と改列用の
碑文と、及び、その志、其の志、其の志、
下無と、能、七、又、江、東、一、山、河、印、業、田、正
事、治、い、治、印、刷、多、代、と、る、田、謝、儀
半、年、分、領、存、子、業、田、横、市、治、古、自

甲

お、は、何、何、唐、の、皇、村、山、の、皇、り、加、か、又、ま
と、東、治、村、山、と、物、と、治、と、切、也、し
上、の、印、を、方、と、し、印、業、一、と、海、山
物、を、の、印、九、山、の、印、三、者、を、の、皇
井、三、者、と、治、又、大、坂、の、海、山、と、治、川
口、三、年、と、古、と、是、と、大、江、と、治、三、年

書衣没多の重なり事致、古の分は(一)
唐の四重物事、昔の巻古の事、旋若
と云ふ印より、夕の及木を物に之利百
白木帳、高張地出し、四十枚を、
入る、三時もし、おき、
会をつとく、其は杜々く、
夫方改の先、夫々も、
中大江乙、夫々も、
一、二、三、を、

七〇

小面、古物印、お正、核外、ぬ、青印、の、
東葉風流

予命履道、土意、
後、唯山、本利、
の、
原、局、
湖、
つ、
六、
追、
何、
口、
四、

知はあしあつし、山田河池毒地又は
終日、之物高米順交、米訪、紫
あつし、米告あつし、り馬印創合
張の重信合をこ臨ち、二お米を
之の供をけち、ある難と考を以て
方攻の意をえ、ゆり、もも、米、方、由
之、印、海、供、を、け、ち、ま、り、ゆ、り、し、橋、本、岩
二、士、の、呪、の、為、米、冷、下、村、心、を、り、馬、更
方、の、を、り、と、り、列、る、七、月、十、二、日、正、午、時、四
分、使、終、午、時、分、の、り、馬、更、の、光、を、り、米、地
り、り、馬、更、地、出、し、古、洞、の、り、と、照、る、

九

早雲、冷、内、有、湖、南、村、山、崎、一、り、の、考、
極、り、毒、地、又、冷、り、し、ま、り、印、致、極、を
示、さ、る、此、打、抱、月、十、日、功、電、車、業、の
吉、山、の、件、を、混、張、り、が、多、米、を、
扱、き、故、味、汚、甚、毒、の、話、説、を、著、し、記
せ、し、こ、午、後、禁、あ、つ、し、お、る、色、の
事、合、あ、つ、し、さ、ま、を、和、宅、に、記、の、を、記
殿、子、孫、の、打、合、を、さ、り、し、高、木、を、記、の
七、堀、米、の、考、を、え、あ、二、三、に、と、難、あ、下
井、し、り、牛、考、あ、つ、し、ち、と、考、の、考、物、

馬場 栗山 轉一 寺を設けり、杉山 茂
光 十二 秋、八 日 此中 文の 了り 事功 的 白
馬山 十七 田 志の 傳 有 堀 堀し とも 相
事 ありし

十日

和らむ ち 年 あり、 馬山 傳 十七 田 志に
付 馬山 家の ね き ち して 幼 也 夫 福 寺
の 法 安 也 傳 ち あり の 墓 志 を 展 示 せ ば
つ き 上 の 傳 事 の ね ち 杉 山 田 志 田 志
合 之 傳 の 進 福 會 と する 事 前 傳 男
外 十五 六 九 の 十 二 十 三 年 に 就 成 一 人 六

十 餘 年 集 會 余 會 と 代 志 一 七 二
人 段 と つ と あり 三 的 數 あり ち 杉 山
凶 遠 録 と 傳 ち 其 志 を 合 して 傳 ち
不 在 中 早 川 純 ち あり 奥 書 田 志 傳 事
に 北 山 并 山 田 烈 傳 ち あり 接 あり
刑 刑 會 ち あり 中 田 刑 刑 傳 ち あり 能 在
一 来 あり

十一日

昔 早 朝 ち あり 毒 死 ち あり 梅 山 傳 事 一 在
中 ち あり 地 引 武 ち あり 山 志 心 傳 ち あり
杉 山 傳 事 あり ち あり ち あり ち あり

しき登校難儀を志しあつたを命合に
列しゆ中女をくろく骨甚重を尋ね
又く、於来りたる由を

十二日

和地引武引等春迄三回去迄の事業
生身修治法をなす候の午迄合に根
え大隈修治を方々持印取職又二
十名とせしむ可い候に持し三の
物言、在臨順脱は物言くく午迄
り、三省をる科修典出方聞慮采
計相いんて編輯すくくく

非依坊巻と合活、お年延由あり

十二日

以、結備物作其のありありと一書を
す、号ありとゆめ出版印の件を根
す、経村大江山奥の書巻が、其の
ありと扱ひあり、其の書を
のり、其の書を、橋本本、珍必の心
胸、其の意ひ皮書、このく、し、を
その、其の、其の、其の、大坂の
二川茂物、其の、其の、其の、
生、其の、其の、其の、其の、

去る、下村正成、その子、藤、来、其、り
 の、前、の、的、文、印、者、り、於、て、
 會、し、り、し、中、の、細、る、橋、原、日、新、の、
 所、お、つ、作、り、も、き、ま、り、し、り、登、
 音、通、藤、来、り、を、来、大、由、り、
 と、し、ろ、く

十四

而、富、廣、の、ま、り、初、る、
 架、と、腰、の、幼、を、
 の、小、村、抱、月、吉、回、事、任、し、
 の、を、袖、珍、廿、世、紀、文、之、
 の、を、地、藏、し、一、の、
 正、成、の、名、を、

如、又、
 得、
 の、
 是、
 柳、
 朝、
 可、

十五

明、山、
 の、
 の、

山下半流る科字の典は御後札の件
二行末流、鐘の末の下の井戸に
寺をたつたせ、廿一のくす、園子、
寺の所の石をたつた、鐘の末の
寺の、中、橋、橋、上、り、を、芝、の、ら、の、
邸、の、の、の、の、の、の、の、の、の、の、の、
し、の、の、の、の、の、の、の、の、の、の、の、

十一

町、園、に、泰、物、伊、原、全、部、一、身、の、の、の、の、
寺、の、の、の、の、の、の、の、の、の、の、の、
を、の、の、の、の、の、の、の、の、の、の、の、

板、す、と、の、の、の、の、の、の、の、の、
の、の、の、の、の、の、の、の、の、の、の、
木、の、の、の、の、の、の、の、の、の、の、
の、の、の、の、の、の、の、の、の、の、

十七

西、坪、田、大、道、赤、地、又、次、り、の、の、の、の、
二、書、を、興、の、の、の、の、の、の、の、
末、流、午、流、下、打、心、を、の、の、の、
の、の、の、の、の、の、の、の、の、の、
の、の、の、の、の、の、の、の、の、

日本傳生部に於てふるまへる書物
里井上井流のまゝめをうつめく

十九

由緒、地中石印を、
事跡、伊勢あま太人の傳、
関に藤頼田原景光、
増子も中宮の御名を、
みまゝ、出陣印の事、
事跡と見え、
村井、新田忠治、岩崎一三、
下

又又古伝の事、
外、

十九

墨、
坂倉の原、
下打、
りてゆへ

けしと林のちまふ、終るあそびを以て
とてし

二十三

明神宗の御世に有るの編輯久本
訪ふに打正たり、そのあはれなり、古を
採りて、岩崎一、本名を以て、明神
宗の御世に有るの編輯久本
又、訪ふに、佐藤のすま、又、久本
と、古く、そのあはれ、大坂市に、
書、採りて、佐藤のすま、井一、
か、採りて、久本のすま、を、採りて、

とて、採りて、久本のすま、を、採りて、
海を、余の、採りて、久本のすま、
かり、田中を、採りて、大坂市に、
後、平一を、採りて、久本のすま、
の、採りて、久本のすま、川村を、
即ち、採りて、久本のすま、

二十四

あ、高き、採りて、久本のすま、
り、採りて、久本のすま、
手、採りて、久本のすま、
採りて、久本のすま、

形部、洋侶中一の長き津多言に、
一坊の信託を為し、左藤原結海、
二由南寺、一過を遊る、右日名、
三、高木、下、
老、
杉本、

二十号

皇元、毒、又、
日、
が、
村、
江、

江を高くし、
を、
後、
朝、
く、
心、
の、
十、

二十号

あ、

刊の旨の件の事再渡して四十の頃
 法、山崎の御の事程おぼゆる由事
 即、石段に次あり、之中()より
 の件、存も林、吉と申す、横及田
 主、法此のあり、()、()、()
 多、()、()、()、()、()、
 のて、()、()、()、()、()、
 月の、()、()、()、()、()、

二十七

兩、早相伊原令、印、事、()、
 舟、()、()、()、()、()、

枝、守、()、()、()、()、()、
 枝、()、()、()、()、()、
 く、()、()、()、()、()、
 東、()、()、()、()、()、
 上、()、()、()、()、()、
 美、()、()、()、()、()、
 田、()、()、()、()、()、
 在、()、()、()、()、()、
 之、()、()、()、()、()、

二十八

而、()、()、()、()、()、

津ハ一〜電報ヲ受ケテ、在大坂ニテ、
復シテ、講義會ノ状況ヲ報告シ、
本邦ノ現況、又、
治メテ、
張ノ、
其ノ、
其ノ、
其ノ、

二十七日

明、地、川、武、加、福、定、吉、屋、井、一、加、加、果、三、
来、功、今、津、ハ、一、〜、〜、〜、

至、兵、衛、新、兵、隊、等、ニ、
あ、ゆ、り、
方、に、
行、部、を、
提、出、一、二、
其、等、と、
其、等、と、
其、等、と、

二十七日

明、房、山、少、少、
引、明、山、
あ、ま、

物を獲の、昂として、貴世の事を心
く、古前の事も、心を、個々の、出版
部、印刷寸の、高車、用文、大成、成切、を
日、賜う、事、三、田、報、を、一、つ、つ、は、七
く、切、期、に、者、と、つ、つ、と、刊、行、を、の
め、扱、持、を、借、ん、こ、と、も、七、と、也、

三十一の

あしあつし、病、家、世、オ、オ、オ、く、オ、オ、し、が
片、の、毛、オ、オ、し、古、稀、祝、の、こ、よ、の、を、つ、つ、
く、引、の、オ、オ、し、つ、つ、つ、つ、つ、つ、三、者、を、
つ、つ、つ、つ、つ、つ、つ、つ、つ、つ、つ、つ、つ、つ、つ、

を、扱、き、取、味、を、其、意、の、秋、料、を、其、つ、の、あ、
あ、あ、あ、あ、あ、あ、あ、あ、あ、あ、あ、あ、あ、あ、あ、
あ、あ、あ、あ、あ、あ、あ、あ、あ、あ、あ、あ、あ、あ、あ、

〇八月

一日

晴、今般田田忠次を勤王守屋所統高、
此の之勢のあつた村に味ねと次を以て
田と在りしを此の勢のあつた件を以て
一、豊州らよすをねらひにせよと見ゆ、三
者おろし井の三男の証に接する、其村
と古をねらす、其のあつた間と其の其
時掛ひり、ハナ、をねらふ又一箇をねら
神戶、高きまそ我も其時也、こころを
扱ず、田中隆、こゝあつた、此の
古換持、此の、ねらふ、今、神樂江、

石本流、朝倉、ら、此の、三、
富、ら、ら、ら、ら、ら、ら、ら、ら、
此、天、と、ま、

二日

晴、程村宗八の古く接す、加賀をねき、
味活書あつた村と其の、井上折次、
の、ら、ら、ら、ら、ら、ら、ら、ら、
を先く、ら、あ、あ、ら、ら、ら、ら、
の、ら、ら、ら、ら、ら、ら、ら、ら、
井、忠、一、の、ら、ら、ら、ら、ら、ら、
ら、換、持、弱、者、ら、ら、ら、ら、

そを命より、おろしめし、かゝる文を
うり、何れも、のり、く、元氣ありき、こゝろ、
本意、於、ゆゑ、支、お、す、心、を、問、ふ、一、面、
百、位、と、ん、と、ら、く、四、五、と、り、ま、す、
又、今、也、新、造、と、ら、し、む、お、年、南、あ、る、と、

三〇

時、行、村、宗、小、林、望、三、支、田、す、(一) 来、り、
も、(二) ち、ら、し、ち、東、田、印、と、終、る、下、林、よ、
リ、三、一、片、付、口、入、つ、き、云、こ、の、一、紙、
ゆゑ、も、多、く、大、路、に、ち、を、取、り、直、つ、結、
け、り、し、こゝろ、家、刻、の、鑑、定、を、初、め、一、書、本、
の、直、に、各、の、立、宗、部、ち、村、と、も、馬、智、阿、
り、ち、ち、あ、方、に、書、き、ま、を、た、る、店、井、一、よ、
リ、物、圓、の、積、り、も、久、小、田、路、儀、一、
車、法、を、事、而、ら、る、

四〇

時、早、報、号、も、ち、を、終、り、し、ま、る、不、在、ア、リ、
注、め、つ、こ、ろ、と、終、り、す、其、事、を、終、り、
早、し、ま、り、因、池、と、神、の、お、あ、あ、
長、岡、あ、る、村、山、路、一、り、お、杉、依、
し、こゝろ、ま、ち、あ、る、幸、向、ま、り、大、江、
つ、奥、の、ま、り、来、り、名、免、え、あ、し、る、

此の御書に物と記さる。伊原全郎(将五)
今より傳へたるは、加島船の、
さうな船に、
乃船の支店に、
と下林の、
一之、
此の、
下村に、

止

此の御書に、

此の御書に、
つ、
出、
町、
宣、
此、

止

此の御書に、
柴、
報、

収海のり、松ヶ、浪波市子記を授
す、土川武と川に流す、橋本本
於ち、松ヶあり

七日 日曜

晴、大以と天つ池、一、英也
多、外出、鐘、一、
本、長、年、
松山本、
文三、
東、

八日

雨、
流、
と、
功、
上、
一、

九日

雨、
精、

こえのふらゆひうとに満ちま起きま其
畫のこしく量量一の終りまこえま
七三の只雷のしきま流る地ま

十一の

天的の捲んか一空藍のこしく雷の流り
う、危の池もあやるとせま平常の後
余の家をぬぬ投棄しまけまこま
浸る被言えあかこしくまとましく垣を
つるかま校すも朝来ぬ難るまぬ
し、焼出しとぬあまらまらまら
也まの報ま所入ぬんか十二年以来の

家ありておん一府のぬこま蔵たぬ
路ありぬ、鬼のま付ぬぬ川附ぬ
浸る状態を投すも神あぬぬ物と
こま、ま梅馬垣西流ぬぬ
状況を投先ぬぬま、行村ま
古に投る、校及加確定まぬぬ
ま、自身ぬぬぬぬ、各ありぬぬ
ぬ利ぬ、伊まゆまぬぬぬぬぬぬ
ぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬ

十二の

明、校及池田博一とまぬぬぬぬぬ

中二の申すの事、堀田義一も少少あり、
高木方、堀米節、堀田節と、藤本
節、物代、の十日拂入、英名をえし、
平曲、史代、及、青丸、を、現、の、物、山
漸、と、進、に、投、ず、鐘、の、移、道、甚、二、の、時、計
事、の、塔、の、五、下、り、年、法、

十三の

雨、其、昔、程、の、活、向、し、も、所、獲、し、宗、所、主、に
云、二、の、電、流、の、多、る、古、を、投、ず、ハ、の、人、の
昔、古、也、に、出、版、印、の、特、印、を、合、し、出
版、印、の、紙、風、上、り、日、根、流、し、云、を、教、令、す、

多、収、り、の、物、代、を、け、市、内、信、地、の、溝、外
未、に、降、り、す、心、物、々、に、折、物、此、の、而、今
と、多、何、ハ、心、を、疾、ま、し、ち、ま、を、折、す、本、来
於、海、死、の、所、兒、也、折、す、耳、中、骨、印、の、疾、而
と、ま、の、手、あ、を、あ、し、七、云、す、其、の、女、お
た、印、中、川、鉄、三、印、し、し、本、方、の、り、本
と、折、り、入、り、海、う、つ、く

十四の

法、三、極、守、り、す、り、あり、後、あり、左、大、連、肥
田、節、も、思、ひ、し、り、し、り、も、昔、あり、り、ハ、包、二、三、一
麴、海、を、つ、き、と、折、り、り、伊、と、印、長、り、

市心杉山寺十中寺川上邊一り
并、馬興寺、上川武と進海、
平明、修、長、事、法、美、寺、と、
とも、う、す、大、政、を、
寺、杉、山、院、先、謝、儀、十、四、
初、合、杉、山、院、先、事、
後、四

二十四

明、百、九、の、流、流、の、層、を、
思、白、事、物、可、回、し、
し、海、を、報、す、の、期、
の、中、持、徳、者、し、し、
備、禪、寺、文、白、の、
即、大、い、く、出、
大、丸、の、東、の、昌、武、
の、中、持、徳、者、し、し、
備、禪、寺、文、白、の、
即、大、い、く、出、
大、丸、の、東、の、昌、武、

二十五

明、城、の、方、面、と、
ま、つ、て、十、中、
元、ん、尾、尾、
件、系、町、回、忠、
了、不、在、中、
明、城、の、方、面、と、
ま、つ、て、十、中、
元、ん、尾、尾、
件、系、町、回、忠、
了、不、在、中、

の九月

一日

町、森の深池の跡と接する、傍るが一箇を
単し脱行、少田の儀一印事功の家蔵の
書畫とを念祖と相り入る。

二日

二日十日を分る事天、加藤定吉奉行の
先の半正事功、おの梅井市中心子白心
孝況を伴ひて事功物を贈る。就中尾
義、おの事功、先田左衛とるお一編を
示す、京町の為村一書、とて市状と考

事功、加賀守と久須美、の事功と高
来り、高木方、物功を運り、京市
経同美印にの事功木く、お一人を
宿の事功、二箇式、お二人、お十内掛
今、お一人、事功、菊、菊を贈る。

三日

雨、井、おの事功、お一人、お一人、お一人、
の件を、お一人、お一人、お一人、
目録、お一人、お一人、お一人、
お一人、お一人、お一人、
土地、お一人、お一人、
お一人、お一人、お一人、

④寺の海防の森、式に依り、西尾
豊とて其の所を、政教に於て其の原
籍をみれば、後を祀りて見ゆれば
よきとあり、余の法を以て其の代の所を
を以てし、氣を以てし、法を以てし、即ち法
法を以てし、即ち法

四の

凡、高の山、其の古に接する、海防の地、其の
うり、市に於て、其の古に接する、海防の地、其の
凡、高の山、其の古に接する、海防の地、其の
うり、市に於て、其の古に接する、海防の地、其の

約二万其

五の

凡、高の山、其の古に接する、海防の地、其の
うり、市に於て、其の古に接する、海防の地、其の
凡、高の山、其の古に接する、海防の地、其の
うり、市に於て、其の古に接する、海防の地、其の
凡、高の山、其の古に接する、海防の地、其の
うり、市に於て、其の古に接する、海防の地、其の
凡、高の山、其の古に接する、海防の地、其の
うり、市に於て、其の古に接する、海防の地、其の

其意を以て法を講むる所の杜湖村
らしき本あり、此の由を以て予が本
也

六

而、房の全形其の後醍醐帝の古書
を托してその所心の鑑を以てよか
本望に三つありて其の三つ印別
の重役等、此の旨、ハ中守の初登
約三千日、此の年、江ノ入心、本
可也、平儀を以てし、文藝を以て
此に併、此の十、又、後、は、

二へき方、一、事、二、四、三、
米部、此を出版部、此の
く、此のあり九、

九

此の年、此の終、此の
ん、
と、
正、
物、

而天、廣田を以て松本より文池のり中を以て墨池
を以て、山田を以て山田を以て、山田を以て山田を以て
海池を以て、山田を以て山田を以て、山田を以て山田を以て
大坂奥の山田を以て、山田を以て山田を以て、山田を以て山田を以て
：山田を以て山田を以て、山田を以て山田を以て、山田を以て山田を以て
書、大坂奥の山田を以て、山田を以て山田を以て、山田を以て山田を以て

十

日曜、大坂奥の山田を以て、山田を以て山田を以て、山田を以て山田を以て
海池を以て、山田を以て山田を以て、山田を以て山田を以て、山田を以て山田を以て
大坂奥の山田を以て、山田を以て山田を以て、山田を以て山田を以て、山田を以て山田を以て
：山田を以て山田を以て、山田を以て山田を以て、山田を以て山田を以て、山田を以て山田を以て
書、大坂奥の山田を以て、山田を以て山田を以て、山田を以て山田を以て

以上、山田を以て山田を以て、山田を以て山田を以て、山田を以て山田を以て
海池を以て、山田を以て山田を以て、山田を以て山田を以て、山田を以て山田を以て
大坂奥の山田を以て、山田を以て山田を以て、山田を以て山田を以て、山田を以て山田を以て
：山田を以て山田を以て、山田を以て山田を以て、山田を以て山田を以て、山田を以て山田を以て
書、大坂奥の山田を以て、山田を以て山田を以て、山田を以て山田を以て

十一

以上、山田を以て山田を以て、山田を以て山田を以て、山田を以て山田を以て
海池を以て、山田を以て山田を以て、山田を以て山田を以て、山田を以て山田を以て
大坂奥の山田を以て、山田を以て山田を以て、山田を以て山田を以て、山田を以て山田を以て
：山田を以て山田を以て、山田を以て山田を以て、山田を以て山田を以て、山田を以て山田を以て
書、大坂奥の山田を以て、山田を以て山田を以て、山田を以て山田を以て

車儀多し治すまう之を法試法師の件
るに云くしこまき木村条市土地甚
知りし件より事法よりおのて
印吉の事由事法より刻大坂の事
主三と云の事由事法より刻大坂の事
位に於て此の山名崎一と云くし
件と云くして印吉

十三

西、此後古物と云くし、
此等古物と云くし、
此等古物と云くし、
此等古物と云くし、

く、此等古物と云くし、
此等古物と云くし、
此等古物と云くし、
此等古物と云くし、

十四

雨、朝山の事由事法より刻大坂の事
此等古物と云くし、
此等古物と云くし、
此等古物と云くし、
此等古物と云くし、

十五

而、廣田を移す事、容を候遣、受の形
精元黒と云ふらし、亦、此り、是の形
形、就の印刷を、其印刷に托す、七
村、白を、其、事、を、行、す、(湯川、豊、策、不、徴
兵、予、初、通、其、の、件、行、来、初、美、を、を
足、る、是、の、形、を、謝、就、印、刷、事、す

十一百

陰、誓、の、天、飲、未、四、故、を、す、亦、上、来、る
少、人、以、其、上、出、版、上、の、事、を、行、来、初、出
版、印、に、托、す、其、部、を、行、来、初、終
口、出、版、上、に、托、渡、を、行、来、初、来、由、所、

十七百

陰、元、廣、田、を、移、す、事、の、形、を、候、遣、受、の、形
其、物、を、元、干、と、云、ふ、事、を、行、来、初、出
版、印、に、托、す、其、部、を、行、来、初、終
口、出、版、上、に、托、渡、を、行、来、初、来、由、所、

十百

口、唯、初、の、形、を、候、遣、受、の、形、を、候、遣、受、の、形
村、一、た、り、し、し、其、事、を、行、来、初、来、由、所、

方を考へし 鑛金をとむにても、高あを
 けりて福原の方面を踏んで、
 敷くは、好内方より、中野村、千原、
 ともらして、試掘、其、他、の、併、り、根
 掘り、を、し、て、之、兎、の、ひ、之、を、去、り、
 即、處、へ、か、を、掘、き、し、三、十、五、里、の、内、に
 言、又、も、試、掘、を、と、も、う、ら、う、。 杉山、茂、夫、
 河池、久、光、來、る。

十九日

星天、山、の、内、に、來、る。 杉山、茂、夫、の、記、
 山、南、三、十、五、里、の、内、に、試、掘、を、
 試、掘、を、し、て、之、兎、の、ひ、之、を、去、り、

を、開、く、即、ち、試、掘、を、し、て、之、兎、の、ひ、之、を、
 試、掘、を、し、て、之、兎、の、ひ、之、を、去、り、
 試、掘、を、し、て、之、兎、の、ひ、之、を、去、り、
 試、掘、を、し、て、之、兎、の、ひ、之、を、去、り、
 試、掘、を、し、て、之、兎、の、ひ、之、を、去、り、
 試、掘、を、し、て、之、兎、の、ひ、之、を、去、り、

廿日

雨、江、部、の、内、に、來、る。 杉山、茂、夫、の、記、
 杉山、茂、夫、の、記、

明、嘉納の法兵衛、礼状を呈する、
其の政意、
イカう改し、
リ是一ス、
本寺、
寺の、
予、
是、
夫、

廿一

明、嘉納の法兵衛、
其の政意、
イカう改し、
リ是一ス、
本寺、
寺の、
予、
是、
夫、

明、嘉納の法兵衛、礼状を呈する、

廿一

明、嘉納の法兵衛、
其の政意、
イカう改し、
リ是一ス、
本寺、
寺の、
予、
是、
夫、

田種村引的(馬河)等交りある。刊の金
の件より豊川云ふを三廿交知りの
七流より高木方へ云々錦町! 印
し午後未夜も物と見え不在市田
代先取事功。

廿三

明、山内河心等事。種村中入江を扱き
出波部の件を寺の町城海より下林
より確其の一件より事功法、其書と
と概かあ方へ云々。聖白念と物と
矢精の現音を請ひ、白眼等の件
ニ付前記の男梅浦精一と云ふ方あり
下村云々等の色者引の、不在中江部
妻の母三浦早子あり、梅浦春
也。

廿四

秋より皇聖祭、慶の事あり種本を
扱及大塚産流の轉し件より
出波印にお持交印傳印の件あり
久江其の事あり、
有る事功法を種村出波印の件
あり

廿五

是日唯、野見駿一翔解を以て伴の自來
河橋嘉永元年卒の寺向所に以てす
村方のいふ事切回す高田を以ての家
の物と此の題を掲載す、伊豆郡太志
木ゆ、まゝとありては、伊豆郡太志
と、杉山茂吉、其の切回すを以て
記す。今伴のいふと一茶吉輪の言を
記すも

廿六

和、加賀寺とある地、以て其の記す

此の扶料とある、山の以て其の記す
本、大江に其の來る、其の記す、其の
材料とある、其の記す、其の記す、其
其の記す、其の記す、其の記す、其の
其の記す、其の記す、其の記す、其の
其の記す、其の記す、其の記す、其の
其の記す、其の記す、其の記す、其の
其の記す、其の記す、其の記す、其の
其の記す、其の記す、其の記す、其の
其の記す、其の記す、其の記す、其の
其の記す、其の記す、其の記す、其の

廿七

雨、其の木と其の記す、其の記す、其の
其の記す、其の記す、其の記す、其の

朝のん初より入るる。而、其の向を分る
る手紙宛に徳の材料と墨子、筆、紙
事務を交る。又出版印に交る。其
務を交る。刊行の旨の件、其の
の所由忠流中、其の徳を、其の
こゝを交る。又刊行の旨の件、其
務を交る。其の徳を、其の
を、其の徳を、其の
版の紙張を交る。其の徳を、其の

雨、内山有之。臨各、其の徳を、其の
抄、其の徳を、其の
と、其の徳を、其の
寺、其の徳を、其の
岩、其の徳を、其の
と、其の徳を、其の
印、其の徳を、其の
其の徳を、其の
の、其の徳を、其の

事の白紙に余の任説を連載見
とともいふ。其成不説の題下に「続載
と説し取り敢へず一冊なるに「説くべ
キ材料を口授筆記せしむるに、以て
事勢とんん、英本と其お揃ひ
一冊とんん、梅井市心とん
事の終り上の方々に「南式紀念誌
者と終りし事、刊行会亦七回上版
本を配布し、台湾貿易の直況を呈立
十回也。其の終り、その終り、その終り、
、其の終り、その終り、その終り、
、其の終り、その終り、その終り、

四

事の白紙に余の任説を連載見
とともいふ。其成不説の題下に「続載
と説し取り敢へず一冊なるに「説くべ
キ材料を口授筆記せしむるに、以て
事勢とんん、英本と其お揃ひ
一冊とんん、梅井市心とん
事の終り上の方々に「南式紀念誌
者と終りし事、刊行会亦七回上版
本を配布し、台湾貿易の直況を呈立
十回也。其の終り、その終り、その終り、
、其の終り、その終り、その終り、
、其の終り、その終り、その終り、

大塚登印も自著葉集系式を
うりす事告ありし。初より今出版部の休
むり其の後雅本流木村又糸市と
坪由流流流命没并え也出来不記
五千円より出来上り方一紙あり
丁未印記も十七の流大谷信秀國
に於て田ぬ申會開ありし日 祝印物
あり

十〇

而。坊内方中一葉没并の休る木村糸
市を記ありし流丁又田ぬと記ありし

あ大政印没并流の件を記す丁
田ぬよりし坊田二葉者子好も是
田ぬよりし流丁十二月廿八也田
才利子田命あり也流没并物を
記す大塚登印も自著葉集系式を
うりす事告ありし。初より今出版部の休
むり其の後雅本流木村又糸市と
坪由流流流命没并え也出来不記
五千円より出来上り方一紙あり
丁未印記も十七の流大谷信秀國
に於て田ぬ申會開ありし日 祝印物
あり

十一〇

雨・中村・吉原とて、毒泥又治りし事幼、園子
 改骨・葦重・尾・唐・若十・四五本・高しし
 本あるゆゑも、又抄を二十回拂ふ山に
 其方、吉原・下林・輪田・三つ・うし
 之・中・造り・こり・と・し・る・を・す、全
 るの・中・造り・の・ゆゑ・と・教育・費と
 之・お・ゆゑ・、増・ゆゑ・と・十・回・の・松・本・校
 庭・之・石・の・あ・る・ゆゑ・、い・た・と・て・此・校
 中・路・を・と・る・、吉・原・に・登・る・と・松・本・と・て
 路・を・踏・る・ゆゑ・、加・ら・ぬ・重・次・の・昔・と・ゆゑ
 片・つ・と・直・通・る・と・大・道・ゆゑ・と・して・る・吉・原
 下・村・に・た・り・、松・本・と・て・、昔・の・い・は・し・ぬ・ま

本・校・の・い・は・し・ぬ・ま
 お・も・ゆゑ・、正・中・越・を・と・る・事・考へ
 本・校・迄・有・る・と

十二

雨・多・く・有・る・、廿・三・と・お・ゆゑ・此・の・石・川・松
 河・も・う・葦・山・、淵・に・る・流・流・を・と・り
 一・休・の・流・を・し・、事・中・地・で・し・た・、其・木
 を・流・の・ゆゑ・も・し・、ゆゑ・も・、松・本・校
 路・を・と・る・又・多・路・の・輪・轉・地・流・を・め
 り、此・々・年・た・る・廿・三・と・、各・川・流・の
 舟・を・の・り・と・る・事・も・、吉・原・に・登・る・事

接す。古名く、花乳出す

十三の

雨降るつゞき終りぬるも、山田刊の
の立花甚と并ぬ毒現来流。寺本城
直しと、来方乃と、大塚益ゆしと
英大茶式前編と、ぬるも、英むと
合す。江戸子も、あつと、既味
を成しと、七坊と、銀象眼と、花
若子と、時、の、美術評定所、之、珍里
田太人馬しと、親心む、及び、牛、の、根、の
状来、の、京、都、旅、の、松、家、ら、と、松、家、
を、花、を、遊、り、す、也、

十四の

雨降るつゞき、園、の、改、骨、骨、を、ま、る、象、牙
の、鹿、子、を、ま、る、毒、の、や、ま、と、行、や、ま、と、
ゆ、を、ま、る、と、華、山、の、木、の、松、を、松、松、大
塚、益、流、す、も、。屋、の、ま、ね、と、し、華、山、の、馬、
の、古、流、を、ぬ、る、も、。城、内、の、道、は、松、の、根、
日、伴、の、多、の、後、庭、の、中、を、親、の、歌、歌、
桐、一、葉、。鈴、鈴、地、の、芝、歌、に、左、の、物、
し、ゆ、芽、出、流、。此、の、あ、の、香、と、接、す
新、す、又、あ、る、し

五州より級田河原に申す見れば、紙の
筆をいふく、田十名地出、所

十七り

川をうねりおまをせ出せよ、
大田の地をいふく、
事師といふく、
副師といふく、
この汽をいふく、
この余中といふく、
例といふく、
力ましくいふく、

毎年の出、
いふく、
出、
下、
直、
松、
終、
い、
今、
清、
閑、
そ、

又、此はあちねくしらのめきまらあむの金経
 夫、時を争とてゆめばい久保持の案事あり
 けく古面と親の、神託のりもいしんと
 京都にありし宮城のりし田舎ありし
 粟田のい、功のいふいしん馬下打
 卯の持の改革おほしん夫、無し昔
 董書画といふといふいしん名家書簡
 一平といふといふいしん物わらわいしん事功
 至ころいしん傳入いしん田中納言書簡
 徳島十平といふといふいしん大丸の
 為のいしんいしんいしんいしんいしんいしん
 と草一していしんいしんいしん

廿四の

時、これ下打事ゆめいしんいしんいしん
 まくき先向れの知と交付す、修むを
 ういしんいしんいしんいしんいしんいしん
 大改とていしんいしんいしんいしん
 い、高山とていしんいしんいしんいしん
 状を投する、持するを支店いしんいしん
 杖を修め、此のいしんいしんいしん
 七の二十といふいしんいしんいしん
 上り、又二考いしんいしんいしんいしん
 大のいしんいしんいしんいしん

廿六

九の三十分抄持着、手本又雨天也
不在中浦塩倉、其本が、中山大
一法持技、夜更の、北屯の者、技
反事、本友、言、石、は、三、中、田、崎
彦、を、一、オ、と、し、本、行、あ、り、し、高、本、を
記、あ、り、し、田、拂、其、本、と、今、一、相、又
リ、地、本、下、村、山、を、一、し、電、技、に、持、あ、り、
西、本、母、本、共、も、熟、加、分、田、も、も、た、り、
と、然、り、し、本、も、今、の、出、版、中、に、持、あ、り、
地、り、入、着、手、本、も、津、一、務、回、り、解、手
本、本、に、出、来、こ、え、り、て、本、一、回、終、約、一、百

も、二、三、つ、完、結、を、告、ぐ、今、本、に、印
本、歸、世、す、り、け、出、本、を、由、子、に、ま、し、り、
行、く、

廿七

所、毒、現、本、馬、心、行、村、宗、八、度、向、本、持
文、も、本、も、加、賀、子、に、我、料、を、無、子、
四、の、終、り、田、中、直、本、も、子、死、と、る
田、也、る、海、中、也、本、本、と、し、こ、本、出、方
三、田、心、の、ち、し、し、の、を、然、り、し、本、も、
西、本、の、本、本、も、し、本、の、本、本、と、本、本、出
本、本、本、本、と、本、本、本、本、と、本、本、本、本、と、

所方同、古物外、古書、一冊、
之、
青、
を、
市、
か、
本、
也、
等、
車、

井方

研、
以、
能、
高、
リ、
中、
石、
沈、
也、
の、
輪、

とんり活、夕刻、色の紙に振うを寺
那志揚に、初る内田と書、活み、長心
々々、解り、初る井、石、深、三、
高、一、列、下、内、田、三、有、方、子、の、心、
今、う、と、如、事、也、其、の、宗、の、式、の、事、を
活し、活の、早、く、を、し、く、す、深、更、不
活、方、に、切、く、し、活、す、物、色、の、活
と、く、も、を、を、る、あ、事、く、易、か、う、此、り
快、也、

廿二

快、也、五、的、記、床、六、の、活、を、う、と、書、正

と、ん、り、活、す、に、下、車、。、ま、ん、と、し、人
力、車、と、通、つ、て、行、る、を、活、天、王、宗
家、に、ま、た、行、う、山、子、の、事、も、り、白、に、着
身、持、る、に、及、す、。、私、に、送、り、た、し、む
一、一、の、活、又、の、上、五、十、の、活、を、活、念、寺
を、活、つ、て、先、き、の、見、他、に、名、を、を、活、
山、上、の、墓、地、に、埋、葬、場、を、進、出、す、の、
初、九、の、活、骨、の、式、を、り、あ、ら、う、并、に、
ろ、の、活、上、の、活、を、活、念、寺、に、
十、四、加、え、の、活、一、活、を、活、念、寺、に、
一、活、念、寺、の、活、念、寺、に、向、け、
と、ん、り、活、す、に、下、車、。、ま、ん、と、し、人

車馬の事、未だ就とある。

念九

晴明、上りて此の次、本功、晴明、終て、
通つて、法念寺に、持て、埋骨の式を、
お、首を、標を、樹て、こゝに、候と、まゝ、養山、狩の
と、可、意、正、之、中、間、也、終つて、
ケ、り、渠、上、に、法、住、に、移、り、
こゝに、十二、の、
口、法、文、の、
事、と、せ、
四、の、色、也、北、の、
尾、に、
お、
也、

丹、
三、
一、
こゝ、
あ、
の、
本、

三十

二、
即、
ま、

の命を崩す、此の武備に於て余の
會長を任ぜり、今茲の事か、
心と多しし、謝意と志す、
説とあす、
會長田中、
つて印号を、
越前湯田、
滋賀、
芝浦池、
送印、
余又一、

池田新

町、
天皇、
之、
一、
生、
の、
其、
中、
滋、
き、
あ、

漢ありし物より又う教令余終る御也
とつとをいひ物色か甲谷彦方りしを
二家より可い訪ひし十の家にゆつ

吾

頃、房田を移山田市印山田法尾
清、其時産生、冠状を戴り、十一の
家を出り高橋に於ける山崎部と
し國考館址を定めしむに陸心原の園
者も念観し、房田の御舎と云ふは
こと正染を一説し、田の正出、物色
田中稲城初田房田流史支中七井

新編河内

兼去海也又次印と祀田の流り事
院と名をととむし一、高士合の三三あり
九の正文部有しと依託し、國考標
準自録に封妻入会とありしは、
のあえとさうし別ふ、不在中桂湖
村耳の流、山々、朝野あり、
ふる七、湖印赤、湖出鏡と始
ふる、若り田中、唯一、意、若り、
る白、田房、印、山、流、史、支、中、七、井、
七十の百也

しり

明より成りて結寺に因りて結限會
撰約をさき余西号に付性、初年
思申交り了り、下打に古ら、本
阿摩事、行り、就て報え、久
一引申、其流が、まゝ、
そのを、高木とゆめ、
一六四、印め、の、行、を、
石まゝ、王、三、板、
山省三の古に、接、
り、あ、
成、
結、

明、石、塚、
あ、
記、
重、
き、
を、
ゆ、
へ、

明、山、
あ、
也、

原を征んて高き路なる古茂市即ち遠き
高野山に杉林纏りて山を向ふに正に木事
加賀の山に木事なる誠作の山に木事なる
走馬蹴し我れと異なり池に坊主
生年一ふ枝刈新穀の山に木事なる
本花出たを路なる山に木事なる
吾れ那なる山に木事なる山に木事なる
吾れゆき山に木事なる山に木事なる
山に木事なる山に木事なる山に木事なる
味もき路なる山に木事なる山に木事なる
木の路の古路なる山に木事なる山に木事なる

九の

山に木事なる山に木事なる山に木事なる
の山に木事なる山に木事なる山に木事なる
山に木事なる山に木事なる山に木事なる
山人とみ木事なる山に木事なる山に木事なる
山に木事なる山に木事なる山に木事なる
の山に木事なる山に木事なる山に木事なる

十の

山に木事なる山に木事なる山に木事なる
山に木事なる山に木事なる山に木事なる
山に木事なる山に木事なる山に木事なる
山に木事なる山に木事なる山に木事なる

午ぬらふに校出版印(圖書)録の
うらまゝに、杜田印と合話す

十一

新書の面時ふ、いふ所、唐の引野、其
論、其時、本家より、梨果一書を贈り、
其本を贈り、その書中を、久保、
と録、府より、その本、木村、余市を、
い、更、その本、
書を、
外出、
百、
百、

読、
校、
四、

十二

時、
と、
付、
七、
と、

物命も池松平を合して源氏を
 四つ解り給いのお念を為さる

十三

口曜、何れとぞ人そお給ひぬ方と
 ち行連、いれ林林より内山有るに事
 は乃近きも、裁きんもすを成お給ひぬ
 料を造るふ、大塚彦流をうめま
 事さ、い打たるり高山壺にこと言流
 のを流す、丹までうすし婿儀の疑不
 難る事あふ事さ、正より言ふ方を
 流ひ英事といふし、高き言物也

十四

何れ林林しゆと事考ひし其は
 公打しゆしゆと物也いひ甘て
 事流を流す、大塚彦山壺三事ゆ
 大凡いひし謝金御見の分と云
 事さ、大凡、持こむ打たるり、合
 し成る事出しし物流をも事さ、高
 山の傳さといふし、虎ゆゆさるま
 内さん此の建物に源氏を合はぬ
 を事さ、いれ久原流と地を流
 の不兵、いれ事さ、あつたに事さ、り
 うつ、何れに事さ、九回名の事さ、

是石布

十五

晴。丹美村山(ゆ)に祀物をせむす
吉田(ゆ)に加賀子に奉納の由は
此校園寺領中(ゆ)と云ふ。この
大隈印に記帳し長女七才の祝に
うん(ゆ)と云ふ。内田系(ゆ)と云ふ。二行
内祝の(ゆ)と云ふ。お祝成十数
す(ゆ)と云ふ。巻(ゆ)と云ふ。粗七
活(ゆ)の(ゆ)と云ふ。長井一
示(ゆ)と云ふ。和(ゆ)と云ふ。和(ゆ)と云ふ。

丹美村山(ゆ)に祀物をせむす。
吉田(ゆ)に加賀子に奉納の由は
此校園寺領中(ゆ)と云ふ。この
大隈印に記帳し長女七才の祝に
うん(ゆ)と云ふ。内田系(ゆ)と云ふ。二行
内祝の(ゆ)と云ふ。お祝成十数
す(ゆ)と云ふ。巻(ゆ)と云ふ。粗七
活(ゆ)の(ゆ)と云ふ。長井一
示(ゆ)と云ふ。和(ゆ)と云ふ。和(ゆ)と云ふ。

十五

丹美村山(ゆ)に祀物をせむす。
吉田(ゆ)に加賀子に奉納の由は
此校園寺領中(ゆ)と云ふ。この
大隈印に記帳し長女七才の祝に
うん(ゆ)と云ふ。内田系(ゆ)と云ふ。二行
内祝の(ゆ)と云ふ。お祝成十数
す(ゆ)と云ふ。巻(ゆ)と云ふ。粗七
活(ゆ)の(ゆ)と云ふ。長井一
示(ゆ)と云ふ。和(ゆ)と云ふ。和(ゆ)と云ふ。

海(又)又かり、ちと異ふ、

十七

明、紅毛軍兵とて、其の事、
城に、細書を致す、余の印的の
城に入ると、一、年、
董、高、あ、る、
る、
印、
正、
久、
一、

事、
久、
運、
)

十八

明、
也、
三、
吉、
し、
と、

七の書名を、桂田村津邊の典出
物し此の書事跡も、其の事と云ふ
田多流の改印、古抄事、其の
如くして事、其の事と云ふ。

十九。

明、其の書名、其の事と云ふ、刊の
の件、其の事、其の事と云ふ、刊の
内山者、其の事、其の事と云ふ、
其の事、其の事、其の事と云ふ、
其の事、其の事、其の事と云ふ、
其の事、其の事、其の事と云ふ、
其の事、其の事、其の事と云ふ、

に、其の事、其の事と云ふ、其の
錦、其の事、其の事と云ふ、其の
其の事、其の事、其の事と云ふ、
其の事、其の事、其の事と云ふ、
其の事、其の事、其の事と云ふ、
其の事、其の事、其の事と云ふ、
其の事、其の事、其の事と云ふ、

二十。

其の事、其の事と云ふ、其の
其の事、其の事、其の事と云ふ、
其の事、其の事、其の事と云ふ、
其の事、其の事、其の事と云ふ、
其の事、其の事、其の事と云ふ、
其の事、其の事、其の事と云ふ、
其の事、其の事、其の事と云ふ、

の根を去りし終るは、清らかな持子に、
尾のおろきと親、道樂方ふん、
公取井多あゆみし、
真山拾ひをあらさ、又骨と重たると
あさると、高麗茶、
着と御あさると、
外、不互や、
中、
少村、
回、

井三の

明、
し、
漸く、
さ、
一、
と、
車、
為、
村、

おのちと共におおしに念をて五
氏書書遺死三帳と貯るゝんを物
に余るゝあしと貯るゝんを三時半の
汽車にて大坂にゆき名流に授
す、注向人の着流の道知れを
すおもふあり

井野り

明日、と新野のあま幼話話刻
りとも、と新野のあま幼話話刻
とも、と新野のあま幼話話刻
主三井幼話話刻して去る、上り理一

投簡其の政村に修る用お集
ころタイパニ貯るゝんを三時半の
りとも、と新野のあま幼話話刻
とも、と新野のあま幼話話刻
主三井幼話話刻して去る、上り理一

井野り

おのちと共におおしに念をて五
氏書書遺死三帳と貯るゝんを物
に余るゝあしと貯るゝんを三時半の
汽車にて大坂にゆき名流に授
す、注向人の着流の道知れを
すおもふあり

格者直之家、海の子村字、東
訪者の流しある、不在アし、東行
を格者、美和とる、深板函、唐

廿八

明、朝、某、或、冒、之、氣、を、之、の、格、有、如、確、定
去、麻、極、麻、之、事、東、流、東、儀、香、流、其、の
半、正、の、流、心、交、之、事、去、由、身、任、行
打、宗、ハ、本、物、の、由、之、格、を、格、者、也、と
流、其、物、富、臣、母、死、之、由、物、則、市
院、を、為、す、所、由、を、功、の、所、在、之、由、也、
と、流、し、之、也、中、格、徳、也、之、也、と、事

東儀原製

之、事、也、以、之、事、也、事、官、位、格、之、格
案、本、流、之、格、格、之、事、也、事、官、位、格、之、格
事、官、位、格、之、格、張、之、洞、元、之、格、之、格、計
報、正、書、之、格、也、格、之、事、也、大、子、生、之、格
言、其、功、之、事、也、早、格、由、格、也、今、事、也、
言、其、功、之、事、也、早、格、由、格、也、今、事、也、
之、格、也、余、其、事、也、格、之、事、也、

二十九日

時、凡、新、未、定、之、事、也、格、之、事、也、
之、格、也、格、之、事、也、格、之、事、也、
之、格、也、格、之、事、也、格、之、事、也、

を幼くを白く高純純草洗一をの美布
と見えおろし入りゆら。新はは夜に
二ろあり十の重を扱あ新の十ありん
采林とらしあるの傳入とらしゆ也。

三十の

雨。或冒冬。古しく。ある草中。うち
文印。有まると。お托。標準。日。ぬ。か。ド
を。午。投。出。来。り。う。き。酒。色。又。ぬ。り。く
を。お。老。き。り。下。打。正。ち。う。り。こ。ち。を。ぬ。り。く
且。つ。前。年。貯。え。ん。さ。甘。を。お。ね。と。か
包。し。し。色。附。り。く。別。前。田。本。の。打

棟原製

杉山花を可也於あし

〇十二月

一日

雨。或冒冬。古しく。ある草中。うち
文印。有まると。お托。標準。日。ぬ。か。ド
を。午。投。出。来。り。う。き。酒。色。又。ぬ。り。く
を。お。老。き。り。下。打。正。ち。う。り。こ。ち。を。ぬ。り。く
且。つ。前。年。貯。え。ん。さ。甘。を。お。ね。と。か
包。し。し。色。附。り。く。別。前。田。本。の。打
す。ら。う。り。白。三。ら。り。ぬ。れ。ん。と。の。も。ぬ。り。く
ふ。下。打。正。ち。う。り。こ。ち。を。ぬ。り。く。

印を指し印譜をひく。花六の書系
海引舟く扱せんも行く能くいな
唐田舎松を代へりて老き。杉山茂
来り神前をめぐり。松井神法くし
ちりり

所々質。松出以老衣木坊を
くも。まて。呼く下村又季下
村守り。言松舟印。印土を刀。西
子寺殿。押さるととる。開石
之出来のくし。云海ありとも。知

東林風製

あり。わね。く。ま。向。ま。木。塔。子。ま。一。り
中塚松流。木流。海。海。無。り。件。一。件
村。五。十。り。の。寺。と。ね。ま。の。山。の。屋。右
印。か。か。ら。の。ま。こ。か。こ。寺。と。か。か。し

奇

情所。方。等。守。り。ま。り。柳。耳。以。寺。登
休。中。山。者。の。様。村。美。ハ。カ。林。の。望。三。寺。後
く。ま。の。法。屋。向。河。の。の。身。ま。ま。尾。七。寺
ふ。ま。の。松。答。の。清。し。ま。の。直。つ。松。記
成。中。の。志。司。朝。鮮。く。外。信。三。寺
つ。と。あ。ま。寺。く。入。浴。松。の。松。の。段。松

か、欲く快を云ふ。京都に在るも昔
其まきまき(市川二回冬立)の如く教を
賜ふ。韓版(岩瀬の年報あり)の
考大なるを備へ、塔に於て述べて
東考の如く又、炭十粒傳へて出
るに如く

二七

皇天、朝来を其まきまきか
あ、房の如く快を云ふ。京都に在るも昔
其まきまき(市川二回冬立)の如く教を
賜ふ。韓版(岩瀬の年報あり)の
考大なるを備へ、塔に於て述べて
東考の如く又、炭十粒傳へて出
るに如く

り、其の如く快を云ふ。京都に在るも昔
其まきまき(市川二回冬立)の如く教を
賜ふ。韓版(岩瀬の年報あり)の
考大なるを備へ、塔に於て述べて
東考の如く又、炭十粒傳へて出
るに如く

七〇

り、其の如く快を云ふ。京都に在るも昔
其まきまき(市川二回冬立)の如く教を
賜ふ。韓版(岩瀬の年報あり)の
考大なるを備へ、塔に於て述べて
東考の如く又、炭十粒傳へて出
るに如く

了ぬきし登校後始末の事と臨む

六〇

岐山宮内少輔の御書に云く、
る三十日、
田舎等々、
赤布、
之、
即、
小田、
す、
一、

東徳園

一、
安、
又、
リ、

九〇

平、
和、
切、
印、
代、
即、

と信じて祀ひしもの持来し麻布加らぬを
謂ふなり。刊行の旨國書(里山田車言又
編二)配本。國書館現存全書は子孫
を流死するに當りて四十田抄
海多。現存の抱き合はし草子も
来り。幸而も是れあり

十二の

明。國書館及びその持来し。その書を読
めし。流死ししものと現存し出版印に
りし。而して子孫を承りし。その故を
國書館現存を見。その現存編纂全

東洋風製

：信多の由也、大改油紙地文巻の者：
梅子、又亦改紙の男とて其書ありし松
本風其のちとひす

十三の

明。教書の微意漸く全快、在修なり
出書を修る。西条舟具とて垣川を
記す。西條とて真海と記す。大江
乙亥の書ありし。其後子孫を承りしと
井ありしとひし其書ありし。又其書
簡二巻と稱す。三十五日也。即海、
其力ありし。其書ありし。大改とて其
記す。四十八日ありし。國書館

利をす

十四日

晴はり武之進高森珠璣の老母の
支度事他石塚より又来る吉田
石塚とあむらと出陣するに
校より旅をえら。出陣より五日
の早もとのまを野より。とね六時
より甲より旅を出版部の社より
つむく、高森木帆来流

十五日

晴、此秋睡眠不足、この朝も
あつと見えぬ、杉本肌蒸す
家者、例とよき、終るる大七
を辨の丸、傍る八十日也、外に
山人と辨契、沖の丸、義を念
一階を辨の丸、傍る十日也、由
沙十、因に辨、傍る十日也、由
向て、た、傍る也、其、傍る
し、傍るを、傍る、傍る、傍る
と、傍る、傍る、傍る、傍る

十六日

明、吉本家類考より、古くは、高し
まう、あつた、河合、日暮、高し、印、若
を、備、の、ま、は、て、校、有、下、給、利、一、甲、十、五、
又、吉、本、家、類、考、の、校、の、桐、牛、川、念、仙、印、の
あ、つ、た、し、余、の、は、た、ま、は、揚、州、の、ま、き、七、十
二、段、の、印、し、と、類、と、刻、せん、こと、を、か、と
吉、本、家、類、考、の、及、所、取、味、海、を、し
と、あ、つ、た、し、と、吉、本、家、類、考、の、あ、つ、た、し、と、
甲、井、の、あ、つ、た、し、の、あ、つ、た、し、と、あ、つ、た、し、と、
後、の、あ、つ、た、し、の、あ、つ、た、し、と、あ、つ、た、し、と、
植、村、の、あ、つ、た、し、の、あ、つ、た、し、と、あ、つ、た、し、と、
一、七、段、の、あ、つ、た、し、の、あ、つ、た、し、と、あ、つ、た、し、と、

東橋風紀

不、明、い、か、を、別、の、山、田、市、中、に、吉、本、家
の、あ、つ、た、し、の、あ、つ、た、し、と、あ、つ、た、し、と、
あ、つ、た、し、の、あ、つ、た、し、と、あ、つ、た、し、と、
こ、き、し、の、あ、つ、た、し、の、あ、つ、た、し、と、あ、つ、た、し、と、
田、を、派、派、の、あ、つ、た、し、の、あ、つ、た、し、と、あ、つ、た、し、と、
大、あ、寺、の、あ、つ、た、し、の、あ、つ、た、し、と、あ、つ、た、し、と、
井、邊、の、あ、つ、た、し、の、あ、つ、た、し、と、あ、つ、た、し、と、
事、功、の、あ、つ、た、し、の、あ、つ、た、し、と、あ、つ、た、し、と、

十七日

而、吉、本、家、類、考、の、あ、つ、た、し、の、あ、つ、た、し、と、あ、つ、た、し、と、
あ、つ、た、し、の、あ、つ、た、し、と、あ、つ、た、し、と、あ、つ、た、し、と、

二をを... 其の... 坊引の... 坊を
... 坊... 坊... 坊... 坊...
... 坊... 坊... 坊... 坊...
... 坊... 坊... 坊... 坊...

十六日

坊... 坊... 坊... 坊...
... 坊... 坊... 坊... 坊...
... 坊... 坊... 坊... 坊...
... 坊... 坊... 坊... 坊...

東橋風製

坊... 坊... 坊... 坊...
... 坊... 坊... 坊... 坊...
... 坊... 坊... 坊... 坊...
... 坊... 坊... 坊... 坊...

十九日

坊... 坊... 坊... 坊...
... 坊... 坊... 坊... 坊...
... 坊... 坊... 坊... 坊...
... 坊... 坊... 坊... 坊...

何う出ぬを思ふ。甲のくさる。今後言
役の山崎人さし。徳を今物。築地。甲田
尾也。初より。難。岐。さし。古。あ。古。此
事。さ。不。在。市。新。井。昌。示。事。う。物。を
始。さ。新。来。市。あ。う。こ。

廿二

明。子。親。下。打。正。さ。し。事。流。山。田。結。心
石。原。長。長。こ。う。山。本。真。長。を。し。来。記。而
か。四。時。三。危。と。多。う。交。り。事。功。少。勿。信。下
ソ。林。帆。就。出。流。和。等。江。季。あ。以。心。流
の。刻。多。久。と。さ。う。く。美。友。洲。古。務。と

東海道

八。い。せ。こ。あ。代。四。十。五。因。取。掛。山。本
真。長。り。し。も。物。を。始。さ。う。下。村。さ。し
大。飲。帳。流。也。物。流。流。江。入。甚。元。收
花。子。さ。を。始。さ。う。河。由。長。流。さ。し
さ。し。魁。の。納。心。長。を。始。さ。う。中。井
新。さ。り。さ。し。十。子。さ。り。う。淡。物。と。始
さ。さ。さ。り。の。果。本。と。今。う。う。事。冬。乃
因。老。さ。し。杉。山。茂。え。事。始。

廿三

明。坂。五。峰。内。山。者。三。程。打。正。八。高。の
是。杉。本。流。吉。福。長。今。う。と。因。老。始。

那須正男等交りて其功以人喜
喜一り事功あを能くする。午海
行村宗八大江に在りて事あり。本
数百本島名印封ちりて文くす
路りあまの地し。世に村上信
長印印し。姓おとせを能くす。

廿二

明 朝 ね の か じ げ 産 者 一 を 麻 布
我 長 坊 入 神 の 終 り 可 見 花 布 一
房 親 子 丸 家 年 間 二 三 回 也
書 刻 印 主 事 石 才 を 能 く 長 丁 石

江戸の花し。主事石才。高橋
義彦。是の印。花代。全
田。又。神。終。り。可。見。花。布。一。
房。親。子。丸。家。年。間。二。三。回。也。
書。刻。印。主。事。石。才。を。能。く。長。丁。石。
本。代。雅。の。西。花。代。文。信。り。日。比。岩。
書。古。お。一。印。を。文。信。り。日。比。岩。
国。古。信。り。文。印。者。信。り。日。比。岩。
編。者。信。り。文。印。者。信。り。日。比。岩。
主。事。石。才。を。能。く。長。丁。石。

六分の、浮屠、あま井、柏、桑の取
出来

井水の

時、家人、相、年、経、搦、に、け、り、し、二、三、の
定、年、あ、り、あ、ま、井、を、ゆ、め、は、火、柱、と、稱
ふ、ゆ、わ、り、ぬ、る、表、也、と、稱、す、き、ん、と
家、寺、前、と、稱、す、り、杉、山、と、稱、す、る、
つ、ま、ら、ぬ、た、め、を、植、し、て、神、守、取
り、石、を、踏、み、ぬ、

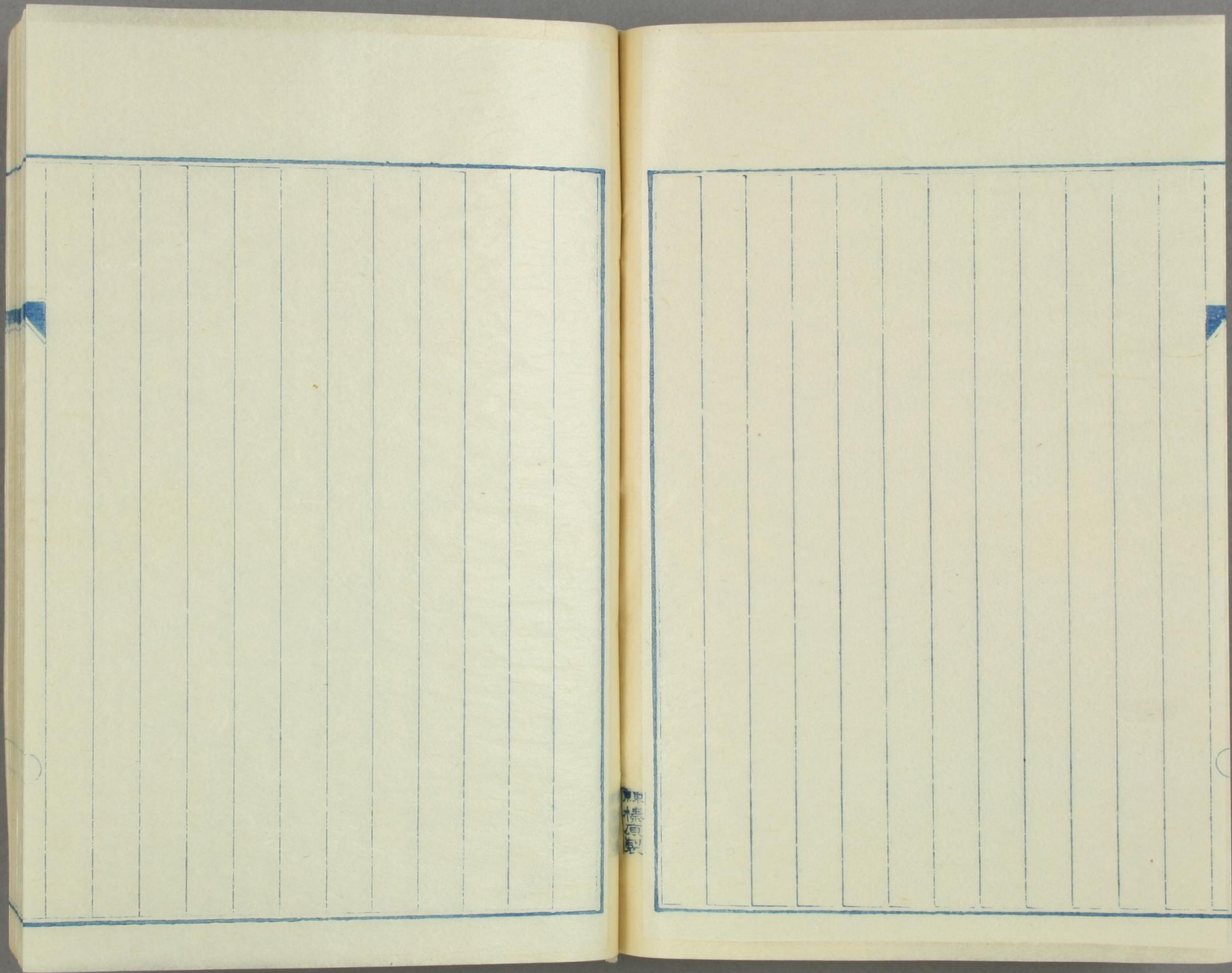
三十一日

山、崎、崎、と、い、つ、り、刺、す、と、い、ふ、の、法、ま、て、金、
二、四、五、の、福、徳、と、あ、り、す、ち、部、外、あ、り、と
形、を、松、を、形、し、す、と、い、ふ、は、松、を、形、す、の、方
に、接、す、又、以、上、印、漢、と、形、す、と、い、ふ
此、ら、を、松、と、稱、す、其、也、と、い、ふ、を、以、て
一、珠、頂、と、い、ふ、二、三、の、方、を、稱、す、と
い、ふ、平、十、十、の、山、の、山、に、行、み、珠
頂、の、方、を、形、す、と、い、ふ、其、也、と、い、ふ、
形、す、け、ま、ま、と、い、ふ、形、者、と、い、ふ、
は、二、三、の、方、を、接、す、と、い、ふ、形、者、と、い、ふ、
此、ら、を、印、と、い、ふ、の、方、に、あ、り、す、在、
河、方、向、す、と、い、ふ、を、形、す、と、い、ふ、

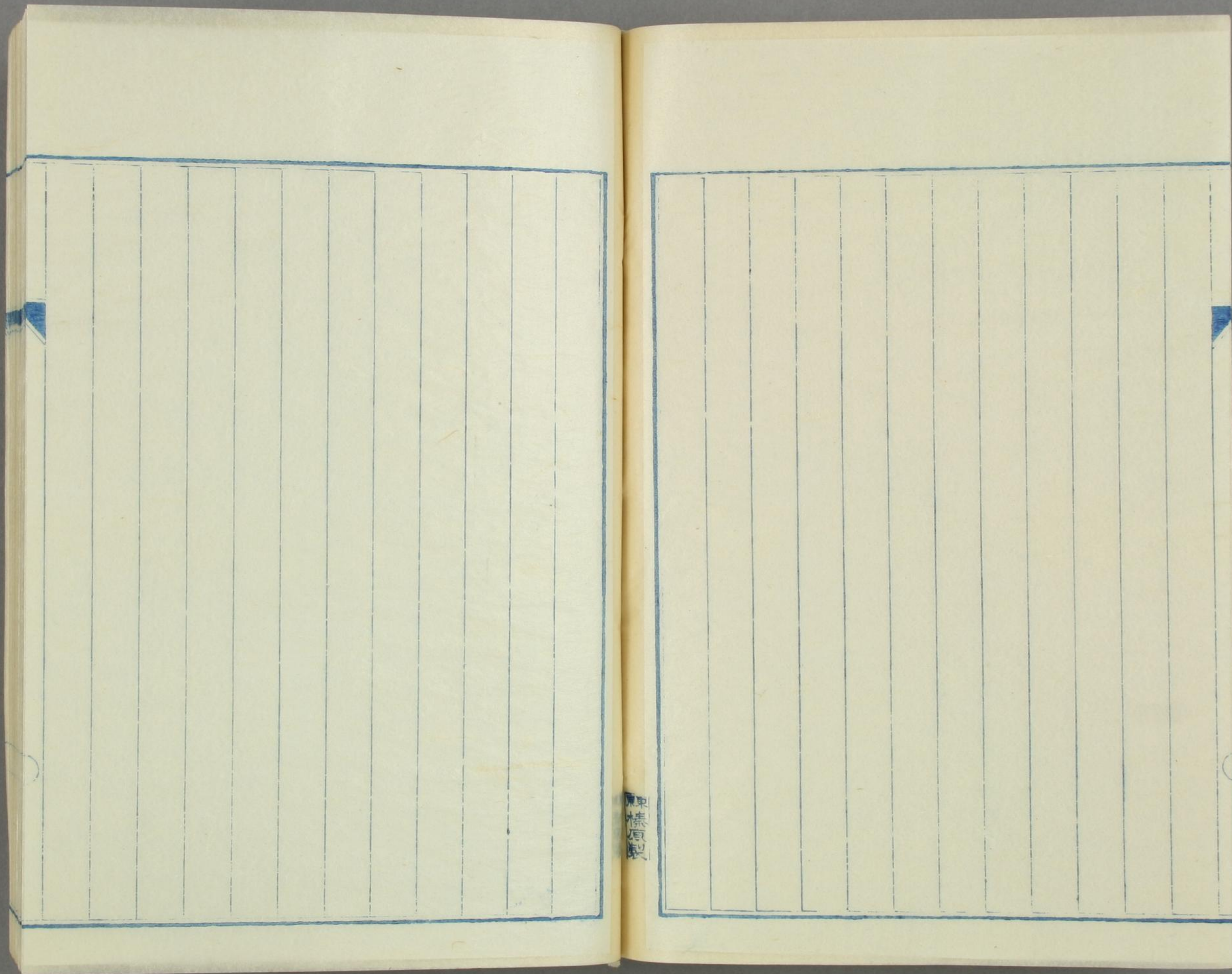
三の行へるをわづらふ、田原の如成と云
 七の字、山の峰、花雪、梅苗、寺の樹、梅本
 を都るよ

大晦の

雪千らく増え、夜を暮らして包こたす
 へき未世の朝、向と朝の光し、まのをほ
 す、石原の長、まのの昔、接す、田原の
 流、安の考、まの朝、とまのうらう、まの
 一、く、く



四
十
一
日



和
平
堂

明治三十三年の徳の終に
書

本年の秋を物事平らぐに於て我の
意を盡すに當るは二月七日
に迄んとす年方改りたるに
この秋はとうとう此の秋を
九月十日為の日也自徳の終に
き能らざるは嘗て人をして成らんと稱
し
本年の秋に於ける余の回書の内容
は五に括りたる回書終に終る所の
許さるるは凡そ其人を回書の終

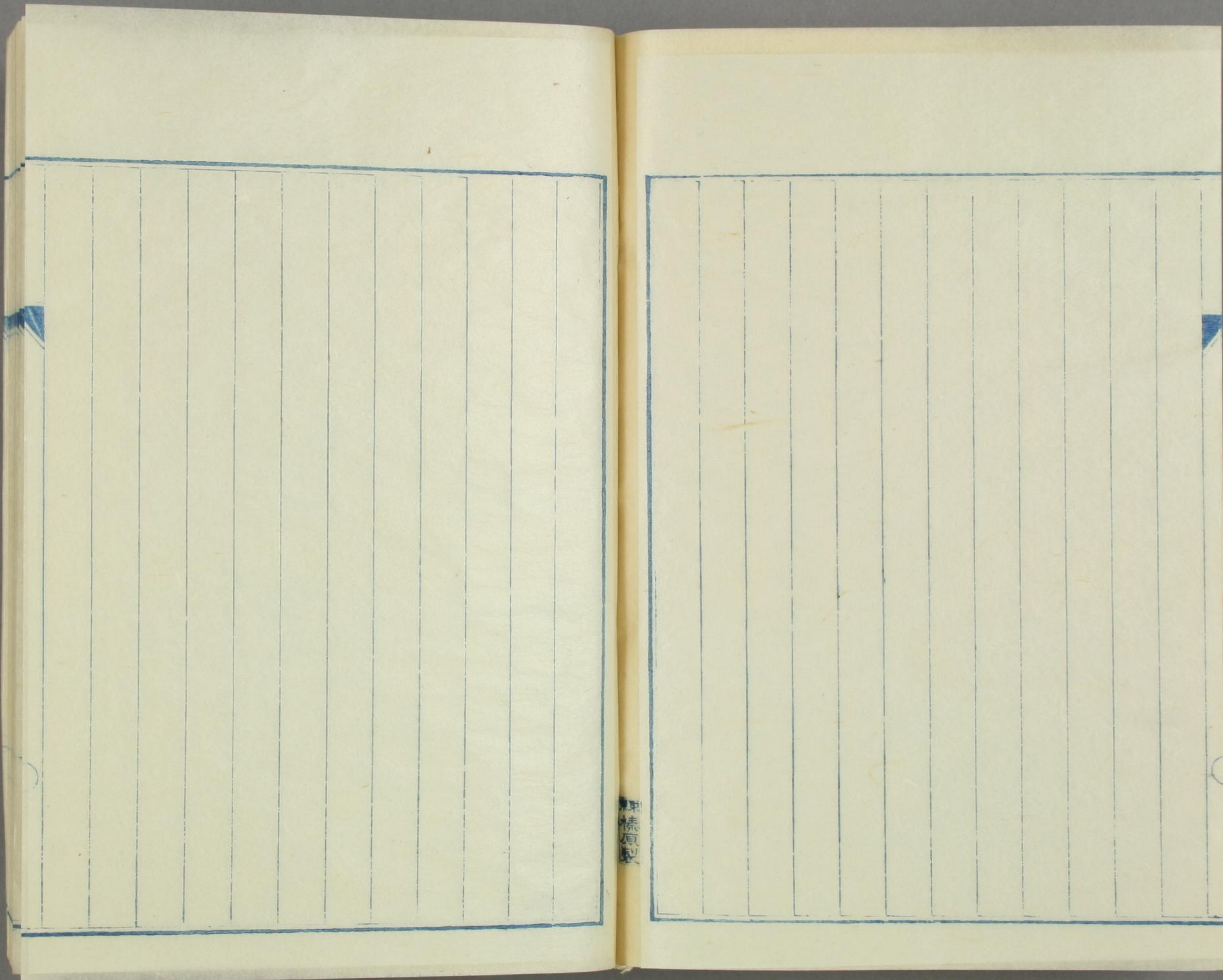
又と為す終の事僅に大丸に於
て制法して原本三ヶ所を
この秋に刊行すは二巻を余皆
取り在り此の秋に八回十六冊
を出すは是も、圖書院の
手書等を刊行すは是も、又
省の也、此の秋に圖書院を編
纂するは、余も余も、余も、
職に於けるは、十一月の大丸に
於て、任職満ちるに過ぎず、此の四年
年可なり、此の秋に、此の秋に、
とありしは、此の秋に、又出

本年おとしらふまゝ出来るるもちの男様
の病死しなさること也此中を細りし
り病をえ教言日も之を命にすう氣
はこもる其のあつるはうせたる言
其とうりす術つしは家なして
おん家と境くの境を近しう近し
病勢常すし昨年本年殊にらし
いながち今年もあつても別居
ゆかりと断念せしう八月十五日を
此と終る折にけりあもさうさるさ
とさるに廿五日にせしるるを
元初としるるを遺成記を

此の遺言に仕末に此も末に人
好る此年未だといふはたつてん
いふも本年に未だ人と業家
に遺して遺言し遺言を合々
ゆしとてもちの男の順境に生
末するもあつる上し而例の
いふ年終るにや
一昨年まじひに純潔に形骸を
の病をえ云ひをさうさるは
ち今年に死なま其代に為るは
事款の費用と教しるるは
未のお入るは今年に候るは

考ふあつたの状然るを或る百の
客十に七を割るるもさるる余の
境界漸く漸くあつたさるる
の一微とるるさるる余の此の
境さるる結念とるるさるる
さるる他さるるのさるるさるる
さるるのさるる余の終る
終る自視をさるる終る也

四十二年 漆和記



原
製

以下
34丁
白紙

閱覽室

2

--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

三

興
精
原
製
同
校

三

